

# 神現祭 晩課聖水式

2009 名古屋半田（本来は前日の晩課に続いて行う。日本では聖体礼儀に続いて）

此の時詠隊左の諸讃詞を歌ふ、第八調。

主の聲は水の上に呼びて曰ふ、皆来りて、睿智の神<sup>°</sup>、知識の神<sup>°</sup>、現れしハリストス神を畏るる神<sup>°</sup>を受けよ。（三次）

8調

① 主の聲は水の上に呼びて 言う ② みな来たりて

③ えい智の神<sup>しん</sup> 知しきの神<sup>しん</sup> ① 神を畏るる神<sup>しん</sup>なる

④ あらわれしハリストスの神<sup>しん</sup>を受けよ くりかえす

- ① 今/水の性は聖にせられ、/②イオルダンは分れ、/③主宰が洗を受くるを見て、//  
④ 其水の流を停む。（二次）

- ① ハリストス王よ、/②爾は人の如く河に来給へり/③、善にして人を愛する主よ  
/、

- ① 爾は我等の罪のために/②前駆の手より//④僕の洗禮を受けんことを願ふ。（二  
次）

光栄、今も、同調。

光栄は父と子と聖神に帰す ① 今も ② いつも ③ 世世にアミン

- ① 主よ、爾は僕の形を受けて、/②主の道を備へよと/③野に呼ぶ者の声につき、  
① 罪を知らざる者にして/②洗禮を求め給へり。/③水は爾を見ておそれ、  
① 前駆は戦きて呼びて曰へり、/②いかんぞ燈臺は燈を照さん、/③いかんぞ僕は  
主宰に手をのせん、//  
④ 世界の罪を任ふ救世主よ、我と水とを聖にせよ。

### イサイヤの預言書の読み (三十五章)。

主は是くの如く言ふ、荒れ野と枯れたる地とは楽しみ、砂漠は喜びて百合の如く離れていました開かん。盛んに咲き喜び、祝いて歌わん。リワンの光榮、カルミルとサロンとの華美は彼に與えられん。彼等は主の光榮と我が神の大いなる事とを見ん。弱りたる手を強くし、震える膝を固くせよ。心の卑怯なる者に言え、強くなれ、懼るる母れ。見よ爾等の神は此処に在り。復讐は来たり、神の報いは来たらん。彼来たりて爾等を救わん。其の時瞽者は目を明き、聾者の耳は開かん。其の時跛者は鹿の如く踊り、啞者の舌は歌わん。蓋荒野に水涌き出で。砂漠に川は流れん。水の幻像は變じて湖と為り、乾きたる地は水の源とならん。野犬の臥す所の棲所には、葦と葦との茂る所あらん。彼處に大路在り。其の道は聖なる道と名付けられん。不浄の者は此れを過ぎざらん。是唯彼等の為に備えらる。此の道を行く者は、未熟なりとも迷わざらん。彼處には獅子無く、猛獸も之に登らず、彼處に於て之に遇わざらん。唯贖われたる者は行かん。主に縁りて救われし者は帰り、歎び呼びてシオンに来らん。永遠の喜びは其の首の上に在り。彼等は喜びと楽しみとを得ん。哀しみと嘆きとは離れ去らん。

### イサイヤの預言書の読み (五十五章)

主、是くの如く言う、渴く者よ、水に往け。銀なき者も往きて沽え。銀なく値なくして酒と油とを食らい飲め。汝等、何ぞ糧ならざる者の為に銀を権り、飽かしむ能わざる者の為に苦勞して獲たる者を権らん。我に聴け、然らば汝等、嘉物を食らい、汝等の靈、福を以て楽しまん。汝等の耳を傾けて、我の道に従え。我に就きて聴け。然らば汝等の靈は、福に在りて活きん。我、汝等に、永遠の約、ダヴィドに許しし易らざる恵みを賜わん。見よ、我、彼を立てて諸民の為に証者となし、諸民の統帥及び師となせり。見よ、汝はかつて識らざりし民を召し、かつて識らざりし諸民は汝に趨り附かん。主、汝の神の故、イズライリの聖なる者の故に縁りてなり。蓋、彼は、汝を榮せり。主を尋ね得べき時に於いて彼を尋ねよ。その近きに在る時に於いて彼を呼べ。不虔の者はその途を棄て、不法の人はその念を棄てて、主に向かうべし。然らば主は彼を憐まん。我等の神に向かうべし。その宏恩なるに因る。蓋、我の念は汝等の念の如きに非ず。我の道は汝等の道の如きに非ず。主、これを言う。即ち、天の地より遠きが如く、かくの如く、我の道は汝等の道より遠く、我の念は、汝等の念より遠し。雨、或は雪の天より降りて復彼處に返らず、即ち地を潤し、これをして萌し長ぜしめて、その播く者に種を与え、食らう者に糧を与えしむるが如く、是くの如く、我が口より出づる所の我が言も空しく我に返らず。即ち、我が欲する所を行い、我が遣わして命ぜし事を成す。ここを以て汝等は楽しみて出で、平安を以て送られん。山と陸とは汝等の前に歌を歌ひ、野に在る樹は皆汝等に手を拍たん。荆棘に代えて雇柏は生い、蓐麻に代えて岡拈樹は生いん。之は主の光榮となり、永遠にして絶えざる徴とならん。



此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て、此に来る者の為に主に祷らん、  
教会を司る我等の主教（某）、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、<sup>ことごと</sup>悉くの教衆、及び  
衆人の為に主に祷らん、  
我が国の天皇及び国を司る者の為に主に祷らん、  
此の都邑<sup>まち</sup>と凡の都邑<sup>まち</sup>と地方、及び信を以て、此の中に居る者の為に主に祷らん、  
気候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に祷らん、  
航海する者、旅行する者、病を患うる者、<sup>かんなん</sup>艱難に遭う者、<sup>とりこ</sup>虜となりし者、及び彼等の救の  
為に主に祷らん、  
此の水が聖神<sup>°</sup>の能力と、挙動と、庇蔭とに藉りて聖にせらるるが為に主に祷らん。  
此の水に、永在三者の潔を為す挙動の降るが為に主に祷らん。  
此に聖神<sup>°</sup>の能力と、挙動と、庇蔭とに藉りて救の恩寵、イオルダンの祝福の賜はるが為  
に主に祷らん。  
速にサタナが我等の足下に殪され、凡そ我等に構ふる悪しき計の敗らるるが為に主に祷らん。  
主神が我等を仇敵の悉くの悪謀と誘惑より拯ひて、許約せられし幸福を受くるに堪ふる者  
と為すが為に主に祷らん。  
我等が聖神<sup>°</sup>の庇蔭に藉りて睿智と敬虔との光に照さるるが為に主に祷らん。  
主神がイオルダンの祝福を遣して、此の水を聖にするが為に主に祷らん。  
此の水が成聖の賜、諸罪の赦、靈體の醫、及び悉くの善益を成す者となるが為に主に祷らん。  
此の水が湧きて永生に至らしむる者となるが為に主に祷らん。  
此が見ゆると見えざる諸敵の悉くの悪謀をしりぞくる者と顕るるが為に主に祷らん。  
此を家屋の成聖の為にくみ取る者の為に主に祷らん。  
此が凡そ信を以て此をくみ及び飲む者の靈體の潔となるが為に主に祷らん。  
我等が此の水を飲むに縁りて、聖神<sup>°</sup>の見えざる顕見を以て、成聖に満てらるるに堪ふる  
者となるが為に主に祷らん。  
主神が我等罪人の祷の聲を聆きて、我等を憐むが為に主に祷らん。  
我等諸の<sup>うれい</sup>憂愁と<sup>いかり</sup>忿怒と<sup>あやうき</sup>危難とを免るが為に主に祷らん、  
神や、<sup>なんじ</sup>爾の恩寵を以て、我等を<sup>たす</sup>助け救い<sup>まも</sup>憐み護れよ  
至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と  
を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリス  
トス神に委託せん、

### (詠) 主 爾に

右の聯祷を誦する時、司祭左の祝文を黙誦す。

主イイスハリストス、父の懷に居る獨生の子、眞の神、生命と不死との源、光よりする光、世を照さん為に來りし者よ、  
爾の聖神<sup>°</sup>にて我等の念を照し、我等爾に、古世より有りし爾の奇妙なる大業、及び李世に顕れし爾が救を施す摂理  
の為に、讚栄と感謝とを奉る者を納れ給へ。蓋爾萬有の王は、柔弱にして貧賤なる我等の合成を衣、僕の量にまで降  
り、甘じてイオルダンに於て僕の手より洗を受け給へり、爾罪なき者が水の性を聖にして、我等に水し聖神<sup>°</sup>とに由る復  
生の途を備へ、我等を初の自由に返さん為なり。主宰、人を愛する者よ、我等此の神聖なる機密の記憶を祭りて、爾  
に祷る、爾が神聖なる許約に因りて、我等爾が不當の諸僕にも潔を成す水、爾が仁慈の賜を灑ぎ給へ、此の水の上に  
捧ぐる所の我等罪人の諸願が爾の慈憐に因りて善く納れられん為、是に因りて爾の降福が我等と爾の諸の信者とに賜  
はりて、爾の拝まるべき聖なる名の榮せられん為なり。

蓋凡の光榮・尊貴・伏拝は爾と、爾の無原の父と、至聖至善にして生命を施す爾の神<sup>o</sup>と  
に帰す、今も何時も世々に、

(詠)「アミン」

司祭 主よ、爾は至大なり、爾の行事は奇異なり、爾の奇蹟を讃榮するに堪ふる言なし。三次。  
蓋爾望を以て萬物を無より有と為しし者は、爾の権能を以て造物を保ち、爾の摂理を以て  
世界を治む。爾四行を以て造物を合成せし者は、四季を以て周年を全うせり。靈智の萬軍  
は爾の前に慄き、日は爾を歌ひ、月は爾を讃め、星は爾に伴ひ、光は爾に従ひ、淵は爾の  
前に戦ひ、泉は爾に勤む。爾天を幔の如くに張り、爾地を水の上に固め、爾砂を以て海を  
限り、爾呼吸の為に空気を漑げり。天使の軍は爾に奉事し、天使首の隊は爾に伏拝し、多  
目のヘルウィムと六翼のセラフィムとは環り立ち、周りに飛び、爾の近づき難き光榮を畏  
れて、面を蔽ふ。爾は像り難き、始なき、言ひ盡されぬ神にして、地に來りて、僕の形を  
受け、人の像を成せり。蓋主宰よ、爾は慈悲の多きに困りて、人類が悪魔に苦しめらるる  
を視るに忍びず、乃來りて我等を救ひ給へり。我等は恩寵を承け認め、慈憐を傳へ、恩賜  
を蔽はず。爾は我が性の族を自由にし、爾の降誕にて童貞女の胎を聖にせり。悉くの造物  
は爾現れし者を讃め歌ふ、蓋爾我が神は地に現れて、人と偕に在せり。爾は又天より爾の  
聖神<sup>o</sup>を遣してイオルダンの流を聖にし、其中に棲む蛇の首を砕けり。

人を愛する王よ、今も親ら爾が聖神<sup>o</sup>の庇蔭に藉りて來りて、此の水を聖にせよ。三次。

此の句を三誦する時、司祭每一次手を以て水に祝福す。

此に救の恩寵、イオルダンの祝福を與へ給へ。此を不朽の泉、成聖の賜、諸罪の赦、諸病  
の醫、悪魔を滅す者、敵軍の近づき難き者、天使の力に満たさるる者と為し給へ、凡そ此  
を?み、此を飲む者が之に由りて靈體の潔、諸慾の醫、家屋の成聖、及び悉くの善益を獲ん  
為なり。蓋爾は我等の神、水と聖神<sup>o</sup>とを以て罪に由りて古びたる我等の性を新にせし者  
なり。爾は我等の神、水を以てノイの時に罪を溺らしし者なり。爾は我等の神、海を以て  
モイセイに藉りてエウレイの族をファラオンの奴隷より救ひし者なり。爾は我等の神、野  
に於て磐を鑿ちし者なり、即水は流れ、溪は溢れ、爾は渴ける爾の民を飽かしめ給へり。  
爾は我等の神、水と火とを以てイリヤに藉りてイズライリをワアルの迷より改めし者なり。  
主宰よ、今も親に爾の聖神<sup>o</sup>を以て此の水を聖にせよ。三次。

凡そ此に觸れ、此を飲み、此を傳くる者に成聖、壯健、潔淨、降福を與へ給へ。

主よ、萬世一系の帝位を踐む我が今上皇帝を救ひ給へ。三次。

我が皇后、皇太子、皇太子妃、及び皇族を救ひ給へ。

主よ、教会を司る至聖なる會院を救ひて憐み給へ。

彼等を爾が庇蔭の下に平安に護り、彼等に悉くの敵と仇とを制服せしめ、彼等に凡そ救に  
務むる願を應はせ、及び永生を與へ給へ。四行と、人々と、天使等と、見ゆると見えざる  
物に藉りて、爾の至聖なる名が父及び聖神<sup>o</sup>と偕に讃榮せられん為なり、今も何時も世々  
に、「アミン」。

司祭、衆人に平安。

輔祭、爾等の首を主に屈めよ。

司祭首を屈めて黙誦す、

甘じてイオルダンに洗受けて、水を聖にせし主よ、爾の耳を傾けて我等に聆き、凡そ我等、己の首を屈むるを以て僕たる  
状を顕す者に福を降し、我等を、此の水を飲み及び灑ぐに因りて、爾の成聖に満てらるるに堪ふる者と為し給へ。主よ、  
願はくは此は我等の霊體の壮健を為す者とならん。

蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮・感謝・伏拝を爾と、爾の無限の父と、至聖至善にして  
生命を施す爾の神<sup>o</sup> とに獻ず、今も何時も世々に、「アミン」。

次ぎて司祭雙手に聖十字架を執りて、十字形に水に祝福して、此を直線に水中に降し、復之を挙ぐ。是の時左の讃  
詞を歌ふ、

### トロパリ第一調

主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾  
を證して至愛の子と名づけ、聖神<sup>o</sup> もハトの形に<sup>あらわれ</sup> 顕れて<sup>ことば</sup> 言の確かなるを示せ  
り。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。(くり返す)



第二次復前の如く十字架を以て水に祝福し、第三次にも此くの加くす。之を為す時聖務長及び他の神品右の讃詞を  
歌ふ。次に両詠隊之を歌ふ。此の時司祭聖水を盤に盛り、左手に十字架を持ち、右手に灌帯を執りて、四方に十字  
形に聖水を灑ぐ。後西に嚮ひて立ち、先ず神品次を逐ひて、続きて衆人來りて、聖十寸架に接吻し、司祭灌帯を以て  
其面に十字形に聖水を傳く。時に讃詞、「主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時」を聯唱して、衆人悉く灌水を以て聖に  
せらるるに至る。次ぎて聖堂に回る、回りにて左の讃頌を歌ふ。

<聖堂内にもどりながら> 6調スティヒラ(「天の王」と同じ)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン、第六調。



(続けて6調スティフィラのメロディで)

信者よ、我等に賜わる神の恩<sup>めぐ</sup>みの大いなるを歌わん。

蓋彼は我等が罪に陥りしによりて人となり、

ひとり潔<sup>けつじょう</sup>淨<sup>ふきゆう</sup>不朽なる者我と水とを聖にし、

また水の中に蛇<sup>かしら</sup>の首<sup>くだ</sup>を砕く者にして、イオルダンにおいて //

我等の潔にて潔めらる。 //

兄弟よ、この故に楽しみて水をくまん、

蓋聖神<sup>°</sup>の恩寵は、信を以てくむ者に、見えずして //

ハリストス神、我が靈<sup>たましい</sup>の救主より賜はる。 //

次ぎて歌ふ(まっすぐ)、

願はくは主の名は崇め讃められて今より世々に至らん。三次。

司祭 (高声) 願はくは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

司祭 ハリストス神我等の恃みや、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、

(詠) 光栄は父と子と聖<sup>せいしん</sup>神に帰す、今も何時も世世に「アミン」

主憐めよ(三次) 福をくませ、

司祭 ハリストス我等の真の神は、其至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金口イオアン、聖(某)(本日聖人)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

萬寿詞

(詠) 神よ、我が国の天皇を、及び国を司る者、

我等の(府)主教\_\_\_\_\_

及び正教のハリストティアニン等を 幾とせにも護り給え。